

⑥ 「検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった」の割合

「検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった」の割合を疾患区分別・処置区分別にみると、以下のとおりであった。

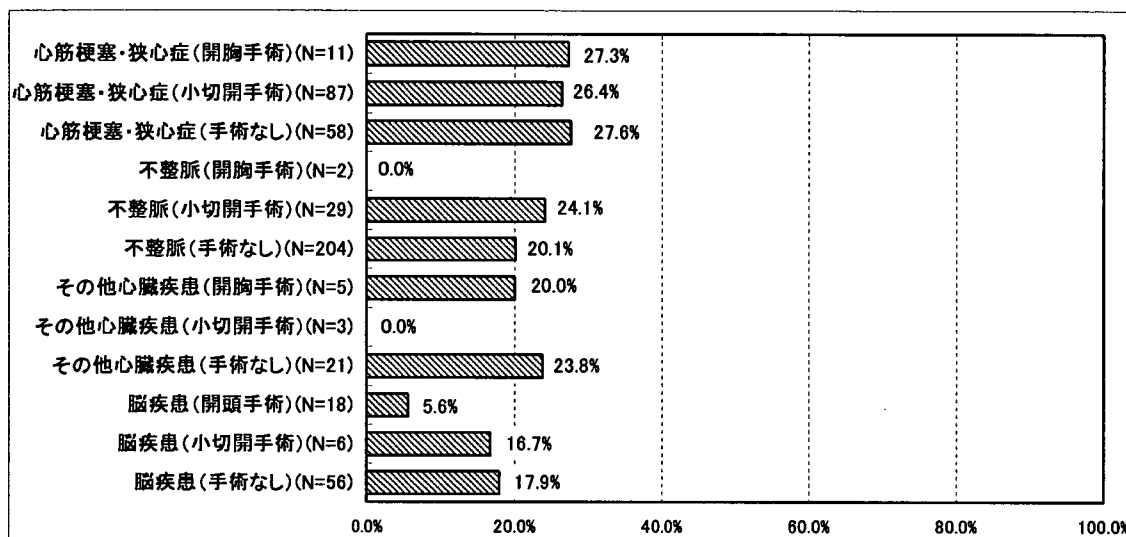


図3.3-19 「検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった」の割合

表3.3-18 「検査・診断を受けるための費用が想定していたよりも高かった」の割合

疾患区分(処置区分)		不安・不快を感じた	不安・不快を感じなかった	全体
心筋梗塞・狭心症(開胸手術)	%	27.3	72.7	100.0
	件	3	8	11
心筋梗塞・狭心症(小切開手術)	%	26.4	73.6	100.0
	件	23	64	87
心筋梗塞・狭心症(手術なし)	%	27.6	72.4	100.0
	件	16	42	58
不整脈(開胸手術)	%	0.0	100.0	100.0
	件	0	2	2
不整脈(小切開手術)	%	24.1	75.9	100.0
	件	7	22	29
不整脈(手術なし)	%	20.1	79.9	100.0
	件	41	163	204
その他心臓疾患(開胸手術)	%	20.0	80.0	100.0
	件	1	4	5
その他心臓疾患(小切開手術)	%	0.0	100.0	100.0
	件	0	3	3
その他心臓疾患(手術なし)	%	23.8	76.2	100.0
	件	5	16	21
脳疾患(開頭手術)	%	5.6	94.4	100.0
	件	1	17	18
脳疾患(小切開手術)	%	16.7	83.3	100.0
	件	1	5	6
脳疾患(手術なし)	%	17.9	82.1	100.0
	件	10	46	56
全体	%	21.6	78.4	100.0
	件	108	392	500

注：その他心臓疾患(小切開手術)では33.3%が、脳疾患(開頭手術)では27.8%が「検査・診断時に不安・不快を感じなかった(意識なし)」と回答している。

⑦ 「検査・診断について、医師の説明が不十分だった」の割合

「検査・診断について、医師の説明が不十分だった」の割合を疾患区分別・処置区分別にみると、以下のとおりであった。

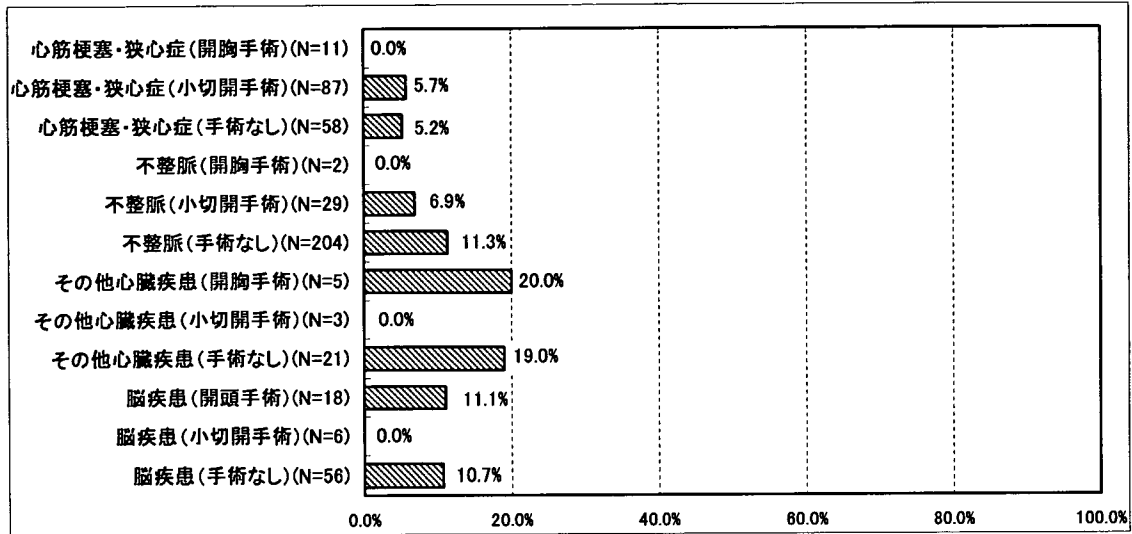


図3.3-20 「検査・診断について、医師の説明が不十分だった」の割合

表3.3-19 「検査・診断について、医師の説明が不十分だった」の割合

疾患区分(処置区分)		不安・不快を感じた	不安・不快を感じなかった	全体
心筋梗塞・狭心症(開胸手術)	%	0	100	100
	件	0	11	11
心筋梗塞・狭心症(小切開手術)	%	5.7	94.3	100
	件	5	82	87
心筋梗塞・狭心症(手術なし)	%	5.2	94.8	100
	件	3	55	58
不整脈(開胸手術)	%	0	100	100
	件	0	2	2
不整脈(小切開手術)	%	6.9	93.1	100
	件	2	27	29
不整脈(手術なし)	%	11.3	88.7	100
	件	23	181	204
その他心臓疾患(開胸手術)	%	20	80	100
	件	1	4	5
その他心臓疾患(小切開手術)	%	0	100	100
	件	0	3	3
その他心臓疾患(手術なし)	%	19	81	100
	件	4	17	21
脳疾患(開頭手術)	%	11.1	88.9	100
	件	2	16	18
脳疾患(小切開手術)	%	0	100	100
	件	0	6	6
脳疾患(手術なし)	%	10.7	89.3	100
	件	6	50	56
全体	%	9.2	90.8	100
	件	46	454	500

注：その他心臓疾患(小切開手術)では33.3%が、脳疾患(開頭手術)では27.8%が「検査・診断時に不安・不快を感じなかった(意識なし)」と回答している。

(4) 検査・診断時に感じた不安・不快に関するコメント

ここでは検査・診断時に感じた不安・不快に関するコメントについて分析した。分析の観点としては、「身体的負担」、「心理的負担」、「拘束感」、「生命・健康」、「医療サービス」、「その他」を設けた。

特にコメントが多かった分析の観点は、「身体的負担」の「痛み」に関する不安・不快、「拘束感」の「身体的拘束」に関する不安・不快、「医療サービス」の「説明不足」に関する不安・不快、「医療スタッフの接遇・態度」に関する不安・不快であった。

表3.3-20 検査・診断時に感じた不安・不快に関するコメント分析の観点

項目	分析の観点
身体的負担	痛み
	不快な刺激
	体力的負荷
	騒音
心理的負担	患者の羞恥心への配慮
	圧迫感・緊張感
拘束感	活動制限
	身体拘束
生命・健康	副作用・後遺症の不安
	再発・悪化など医療の不確実性に対する不安
	未体験の検査・診断への不安
	生命への不安
医療サービス	今後の生活への不安
	説明不足
	医療スタッフの技能に対する不満
	医療スタッフの接遇・態度
	医療機関へのアクセス
その他	経済的負担
	その他の不安・不快

1) 身体的負担に関する不安・不満

① 検査・診断時の「痛み」に関するコメント

検査・診断時の「痛み」に関するコメントとしては、「カテーテルを入れている間ずっと痛かった」など、カテーテル検査時の痛みの回答が多くあった。

表3.3-21 検査・診断時の「痛み」に関するコメント

カテーテル検査の結果、冠攣縮性狭心症と判明したが、心筋の反応を見るための検査試薬の投与量を段階的に増やしていく際、体反応はある閾値のところでは起こるためか、急に心臓部に苦痛を感じた。頻脈のままカテーテル検査を受け、造影剤投入の違和感がすごく嫌だった。その間の自動血圧計の圧迫感もものすごく気になり、苦しかった感があった。

カテーテル検査後、手首の痛みや腫れ鬱血状態が10日間位続きました。その後数ヶ月しても時々、右手首の痛みがありました。2年3ヶ月前に検査をしました。現在では痛むことはなくなりました・・・。

カテーテルを入れている間ずっと痛かった。

血管カテーテルがスムーズに通らず、痛かった。

カテーテル検査のとき、痛みがあり大変でした。

心臓カテーテル検査を受けたが、局所麻酔の注射が痛かった。

カテーテルの麻酔。その後の尿道管が非常な苦痛であった。

体内にカテーテルを入れられている時は不快感がある。施術者によって痛みの感じ方に差があった。

右腕から検査を初めて上手くいかなく2時間ほど経って左腕から検査をしてかなり長い時間痛い検査を受けたのが非常に辛かった。

3ヶ所からカテを挿入する心臓カテを行ったが、カテ挿入部の麻酔が切れるたびに激痛に襲われたのが辛かった。

カテーテルの検査なんて検査と言うより手術と同じ。

血液検査の採血が嫌だった。

採血に時間がかかりかなり苦痛でした。

いつも以上に脈が速くなり胸が苦しくなった。

不安ではないが、痛みが強かった。

痛かった。

苦しかった。

心臓の鼓動が不規則で、モニターを続けているのみで、苦しかった。

意識はあったが胸のあたりが締め付けられるような痛みと全身がだるかった。

硬い診察台で長時間寝ていたので、腰痛になった。

心シンチの時、苦しくて死ぬかと思った。

② 検査・診断時の「不快な刺激」に関するコメント

検査・診断時の「不快な刺激」に関するコメントとしては、「血管内をカテーテルが通る際の皮膚感覚」などの回答があった。

表3.3-22 検査・診断時の「不快な刺激」に関するコメント

血管内をカテーテルが通る際の皮膚感覚（たとえば皮膚の下を虫が這うような感じ）。些細なことですがQOLの観点からの答えです。

心臓カテーテル挿入中の不快感。

尿管に管を入れたり、抜いたり。

24時間心電図の電極を押えているテープに負けて、一目目で痒くて・・・たまらない。電極を外すと時に皮まではげて・・・皮膚科で薬をもらった。

③ 検査・診断時の「体力的負荷」に関するコメント

検査・診断時の「体力的負荷」に関するコメントとしては、「運動時の検査で、かなり長く走らされた」の回答があった。

表3.3-23 検査・診断時の「体力的負荷」に関するコメント

運動時の検査で、かなり長く走らされた。

④ 検査・診断時の「騒音」に関するコメント

検査・診断時の「騒音」に関するコメントとしては、「検査機器の発信音が大変気にかかった。不安感を増幅させていると思う」、「閉鎖空間独特の圧迫感と音のうるささ」などの回答があった。

表3.3-24 検査・診断時の「騒音」に関するコメント

検査機器の発信音が大変気にかかった。不安感を増幅させていると思う。
MRI をとる時に騒音と狭い空間に入れられるのが苦痛だった。
検査時の音がきになった。
気分が悪いときにうるさい検査をしてさらに気分が悪くなった。
音。
MRI の音が想像以上に大きかった。
ヘッドホーンをつけていても音が大きくうるさかった (MRI 検査)。
閉鎖空間独特の圧迫感と音のうるささ。
拘束感と騒音、先行き何をされるのかといった不安感。
何度受けても MRI の音は怖い。

2) 心理的負担に関する不安・不満

① 検査・診断時の「患者の羞恥心への配慮」に関するコメント

検査・診断時の「患者の羞恥心への配慮」に関するコメントとしては、「裸で運動させられ精神的に苦痛だった」などの回答があった。

表3.3-25 検査・診断時の「患者の羞恥心への配慮」に関するコメント

裸で運動をさせられたので、服を着てはいけないものかと苛立ちを感じた。精神的に苦痛で、もう検査は受けたくないと思った。
トレッドミルと言う負荷検査では上半身裸の状態で行った。研修医や医師が何人も同席していた。電極を幾つも胸部に貼付するが、検査着を着せてくれてもいいのではないかと思う。
裸で運動をさせられ精神的に苦痛だった。
羞恥心への配慮がなかった。

② 検査・診断時の「圧迫感・緊張感」に関するコメント

圧迫感・緊張感の問題に関するコメントとしては、「MRI に入る際に、狭いところに入るので、かなり怖かった」など MRI 検査に関する回答が多くあった。

表3.3-26 検査・診断時の「圧迫感・緊張感」に関するコメント

暗い世界に入る (MRI, CT)。
MRI に入る際に、狭いところに入るので、かなり怖かった。
閉所恐怖症なので、検査の時苦痛を感じた。
MRI をするといわれたが、極度な閉所恐怖症の為検査が出来なかった。
MRI 検査を受けた時、工事現場の真っ只中に長時間居るみたいで、少し気分が悪くなった。
閉所恐怖症で MRI が出来なかった。
MRI の検査の圧迫感が怖い。
発病したとき MRI が長く感じられ、閉所恐怖を感じた、恐らくそのときの状態がそうさせたと思う。
カテーテル検査の診療室内の空気の緊張感がストレスだった。
気弱な性格がいけないと思いますが…大型の機械にて検査を受ける際、緊張のあまりに全身がひきつっていたらしい。生まれてはじめて精神安定剤を服用した (させられた) のがこのときでした。それでも音に緊張し、常に誰かが付き添ってくれるでもなく、事前説明も不親切のまま、ただ淡々とベルトコンベアーに載せられた製品のように次々にかけて、しばらく震えがとまりませんでした。

3) 拘束に関する不安・不満

① 検査・診断時の「活動制限」に関するコメント

検査・診断時の「活動制限」に関するコメントとしては、「非日常的な器機を身につけることによる不便さ」、「24時間心電図をつけるため、風呂に入れない」などの回答があった。

表3.3-27 検査・診断時の「活動制限」に関するコメント

<在宅時>

ペースメーカーのようなものを1日つけられて、入浴もできなかった。
心電図をテープに録音する機器を着用しながら仕事するのは動きが制限され、端子や機会が誤作動しないか不安になった。
3週間の入院、食事制限、水分制限。
ホルター心電図をつけたため、通常の生活に支障が出た。
24時間心電図をつけるため、風呂に入れない。
24時間心電図をつけるため風呂に入らず。
風呂に入れない検査を、連続2日受けることになったため。
通院、検査のために仕事を連続して休む、お風呂に入ることができないということがあった。
仕事を2日にわたり休まねばならなかったこと、お風呂に入ることができなかったこと、24時間心電図をモニターするため、服の上から配線がでて目立ったこと。
非日常的な器機を身につけることによる不便さ（行動が制限される）。
自分で病院に行ったのに突然入院を言い渡され驚いた。仕事の段取りもつけていなかったので困った。
検査をするのに24時間心電図をつけられ生活が制限された。
思っていなかったのと、急に入院する事になったので。医師の説明は分かり辛かった。

<入院時>

血管造影の際の不快感に入院を伴う検査。
検査入院は気持ちが良くない。
点滴を投与するのに入院が必要といわれてたった一時間程度入院しました。
検査のために入院した。
検査を含め入院は初めてだったので不安だった。
担当医師が休暇に入った為予想以上に長期の入院をした。
入院により、生活に制約を受けた。
検査入院により生活が制限されたため。

② 検査・診断時の「身体的拘束」に関するコメント

検査・診断時の「身体的拘束」に関するコメントとしては、身体の拘束について「MRIの撮影時間が長くじっとしているのが苦痛」、待ち時間について「放っておかれる待ち時間が不安」などの回答があった。

表3.3-28 検査・診断時の「身体的拘束」不安・不快に関するコメント

<p><身体拘束></p> <p>MRIやCTなどは体が拘束されていて恐怖感がある。 検査時間が意外に長い(MRI, CT)。 MRI検査のとき、静止していなければならないのにいらいらしてきたりかゆいところが出てきたりしてその時間が長くて苦痛に感じた。 いろんな検査をして、なかなか終わらない。 一つ一つの処置や検査の際、数十分も待たされ、本当にやってるのかという気持ちになった。 24時間心電図をとるのは苦痛。 MRIの撮影時間が長くじっとしているのが苦痛。 体が動かなかったこと。 心臓カテーテル検査・手術後、止血のために長時間身動き出来ないのが非常につらかった。 3ヶ所からカテーテルを挿入する心臓カテーテルを行ったが局所麻酔で11時間に及んだため、11時間全く身動き出来ず苦痛だった。 首のヘルニアの手術前の心筋梗塞だったため 身体を動かさなくて辛かった。 カテーテル検査を受けたため、検査終了後数時間にわたりベッド上に拘束され、腰が痛くて起き上がりたくなかった。 心臓カテーテル後、24時間絶対安静の不安。 拘束が長い。 絶対安静のため、体が動かさずに精神的に辛かった。 カテーテルの検査や手術を何回も繰り返していやだった。 カテーテルを大腿部の動脈から入れたので、丸一日ベッドの生活し、総合で五日間の入院。 くわしく説明は受けたが、心臓カテーテル検査は長時間ベッド上で動けないこともあり、不安が大きかった。</p> <p><待ち時間></p> <p>日常生活で苦しい時が多かったのに検査期間が長く、診断が出るまで時間がかかったので、ストレスがかかった。 検査の受付が長い。 長時間の待ち。 初診で4時間待ちだったので、今度は違う病院に行きたい。 やっぱり、一番は待ち時間の長さ。子どもを連れて受診なんてするものではない。 予約の診察なのに、いつも1時間近く待たされて、診察時間はほんの数分しかない。主治医が忙しくて他の病院に廻されたが、医療費が高くなるし、薬も満足に揃っていないので、また元の病院の主治医に診てもらおうことにした。 検査に想像以上の時間がかかって、検査だけで一日がつぶれた。何度も検査をしたり、検査結果を聞きに行くだけでも、かなり待たされた。 入院時よりも通院時の検査時の診問のおざなり加減が待ち時間に対して不快だった。 一応の診断が出るまで数年にわたって数回検査を受ける必要があった。 検査日程に融通が利かなかった。 診断がくだるまでの不安。検査を受けるまでの待ち時間。将来を案じて。 放っておかれる待ち時間が不安。 検査の待ち時間が不安であった。 検査結果までの時間が長い。</p>

4) 生命・健康に関する不安・不満

① 検査・診断に因る「副作用・後遺症の不安」に関するコメント

検査・診断に因る「副作用・後遺症の不安」に関するコメントとしては、「負荷心電図を数回行い、股関節炎になった」などの回答があった。

表3.3-29 検査・診断に因る「副作用・後遺症の不安」に関するコメント

<p><一過性副作用></p> <p>検査試薬により一時的に苦痛をとまった。 気分が悪くなった。 MRI 検査を受けたとき、血圧を下げる薬を投与されたとき気分が悪くなり、嘔吐をしてしまった。 MRI 検査を受けた時に、血圧降下剤を投与され気分が悪くなり、嘔吐をしてしまった。 不整脈だけのためホルター心電図のみでしたがテープでひどくかぶれた。 ホルター心電図でかぶれた。 強い作用の薬で恐ろしい副作用が出ないか不安だった。 カテーテル検査中に気分が悪くなり、酸素吸入を受けた。 カテーテル検査時に使用する生理食塩水に（一度だけ別の病院で反応したことがあるので）また、反応したら怖いなどと思った。</p> <p><継続的副作用・後遺症></p> <p>妊娠中だったこともあり胎児への影響が心配だった。また赤ちゃん自体が重症心疾患のため、遺伝的要素があるのではないかと悩んだ。 負荷心電図を数回行い、股関節炎になった。 カテーテルをいれての検査は、検査後に後遺症が残らないかなど不安があった。</p>
--

➤ 「再発・悪化および医療の不確実性に対する不安」に関するコメント

検査・診断時の「医療の不確実性に対する不安」に関するコメントとしては、「1つの病院での診断で完全なのかどうか」などの回答があった。

表3.3-30 「再発・悪化および医療の不確実性に対する不安」に関するコメント

<p><再発・悪化の不安></p> <p>完治するかどうか、再発への不安。 またどこか悪いのではないのかという不安。 症状が改善されないかもしれない不安があった。 病気の進行度合いがどの程度なのかがとても不安だった。 病状について完治するか、否か？について。 本当に良くなるのかという心配。 ちゃんとなおるか。 飲酒による転倒、硬膜外血腫などの可能性を考えて。</p> <p><医療の不確実性に対する不安></p> <p>100パーセント安全ではないから 一日付ける心電図の機械を付けたときは症状が出なかったので、なんでもないと言われたこと。その日はたまたま症状が出なかっただけで、他の日には症状が出ていたので、たった1日の検査で決め付けられたことが不安、不快に感じた。もっと丁寧に診察してほしいと思った。 1つの病院での診断で完全なのかどうか。 カテーテルを受ける前の医師の説明で、最悪の場合を言われるとやはり不安になった。 入院当初、診断がつかず、ほとんど効果の感じられない鎮痛剤を投与されるだけの状態で、2日間様々な検査が続いた。 カテーテル検査において、2%の死亡率があると言われた。 動脈カテーテル検査の時の注意で血管を傷つける事が、ある事を告げられた事。</p>

② 「未体験の検査への不安」に関するコメント

「未体験の検査への不安」に関するコメントとしては、「受けたことがない検査だったので、漠然と怖かった」、などの回答があった。

表3.3-31 「未体験の検査への不安」に関するコメント

初めて造影剤を注射したときに、不安を感じた。
受けたことがない検査だったので、漠然と怖かった。
狭心症の検査という事に不安を感じた。
動脈からカテーテルを入れての頭部のレントゲン検査は初めての経験で怖かった。
検査結果、病状への不安と初めての被検内容への心理的圧迫 冷徹な感覚の検査の推移。
検査でNGだったらカテーテル検査までするという不安感。
やったことが無い検査と、検査室の雰囲気不安は感じます。
そもそも病院とは無縁に暮らしてきた者にとっては、何とも言えない圧迫感を検査、診断で受けました。
初めての経験だったので 説明は十分受けていたが 心理的に不安だった。
全く初めてのことであるための不安が大きかった。
担当医師による事前の説明は十分過ぎるくらいにあり、当方も十分理解はしていたつもりであったが入院も初めて手術も始めてで、言わば未体験に対する不安が凄くあった。
何をされるかと恐怖心でパニック症候群になりかけた。

➤ 検査・診断時に感じた「生命への不安」に関するコメント

検査・診断時に感じた「生命への不安」に関するコメントとしては、「重大な病気が見つかったらどうしようという不安」、「心臓は、命に直結するので不安が大きかった」などの回答があった。

表3.3-32 検査・診断時に感じた「生命への不安」に関するコメント

結果が不安だった。
病状について。
痛みがどのくらいかわからなかった。
痛みがくるのではないかと漠然とした不安。
どの程度、症状が改善されるか不安。
意識があるので苦しみとともに生きることに強く不安を感じた閉所恐怖のような気持ちになった。
心臓は、命に直結するので不安が大きかった。
何故このような状況になったのか、どのような検査をされるのか不安だったから。
死ぬかと思っていた。
脳への恐怖。
大丈夫かなと思った。
死ぬかと思った。何をされるのか不安を感じた。
単純に「いったいどうなるのか？」と言う不安。
自分自身が医者なので余計に悪い方へばかり考えてしまったため。
生死にかかわるのではないかと不安になった。
重大な病気が見つかったらどうしようという不安。
寿命。命。
発病するまでの日々がストレスの嵐だったので、入院した瞬間、開放されたのですが、診断を受けるまでの間は不安だった。
検査項目が増やされることによる金銭面での問題は程度やむをえない気がしたが、自身の病状への不安が大きくなっていった。
回復について。
生に対し将来に不安を強く感じた。
自分の健康状態について不安が高まった。

③ 検査・診断時に感じた「今後の生活への不安」に関するコメント

検査・診断時に感じた「今後の生活への不安」に関するコメントとしては、「30代での心筋梗塞という診断に対して、これからの余生への不安」などの回答があった。

表3.3-33 検査・診断時に感じた「今後の生活への不安」に関するコメント

<p>今後の生活に不安を感じた。 これから先のこと。 これからどうなるのかが心配だった。 先行き。 将来の不安。 30代での心筋梗塞という診断に対して、これからの余生への不安。 検査診断を受けた時点で今後の生活の不安感。 突然の発病でびっくりして今後どうなるか不安だった。 検査診断に対する不安でなく自分の今の状態に対する不安。 自分の人生がこれで終わってしまうのではないかという不安。 今後どうなるのだろうか？</p>
--

5) 医療サービスに関する不安・不満

① 検査・診断時の「説明不足」に関するコメント

検査・診断時の「説明不足」に関するコメントとしては、「検査内容の説明が無く、これから何をされるのかわからなかった」、「不安・不快の原因は、医師の説明不足によるものが最大だとおもいます」などの回答があった。

表3.3-34 検査・診断時の「説明不足」に関するコメント

<p>不安・不快の原因は、医師の説明不足によるものが最大だとおもいます。</p> <p>適切な説明がなかった</p> <p>医師の説明が不足している</p> <p>説明が十分でなかった。</p> <p>説明不足</p> <p>説明が凄く不足している。</p> <p>医師からの説明が少なかった。</p> <p>具体的な説明がなかったから</p> <p>説明内容をもっと詳しく聞きたかった。</p> <p>具体的な説明がなかった。</p> <p>はっきりした説明がなかった。</p> <p>専門用語が分からない</p> <p>専門用語</p> <p>検査内容の説明が無く、これから何をされるのかわからなかった。</p> <p>検査が次々と進んでいくが、医師の説明が伴わない。</p> <p>検査の説明がなかった</p> <p>検査名は言われるけど、どんな検査なのかわからない。</p> <p>どんな検診になるか最初よくわからなかった</p> <p>検査時になにをされているのかわからないときがあった。</p> <p>説明が難しく、病気の内容について理解できなかったので不安感が高まったこと。</p> <p>何をするのかよくわからないので、されることひとつひとつが不安でした。</p> <p>何を、何が判るのかの、検査の詳細な説明が無かったので囚人になった様な気がした。ただ何処へ行って待っていただけだった。</p> <p>何を知るために必要な検査なのかわからなかった。費用の説明・手術内容等説明はなく『検査手術をしないと書類が書けない』と言われた。</p> <p>小都市の病院であったため、脳外科の医師が常駐していなくて大学病院の派遣医であったため初診時以降1ヶ月ほど直接何の説明もなかったため。</p> <p>病気の程度が分からないため、不安だった。</p> <p>説明もなしに手術と言われた。</p> <p>薬で発作を抑えられるが、根本的治療にはならないと説明されたことに対して不安を感じた。</p> <p>不整脈が一日のうち三分の一あるということで、不安になった。しかし、30歳以上になれば、不整脈が出るということで、特に不安はないと医者に言われた。</p> <p>診療時間が短い。</p> <p>検査時間が短いので不正脈が出ない場合が多い。</p> <p>問題部位を摘出したらあとは大丈夫という感じの性質のもので、医師の説明もそれほど危機感がなく（それは良かったのですが）、詳しくもなかったように思います。</p> <p>説明が凄く不足している。即、手術しないと寿命がと言われ半年と言われたことに非常に不安を感じた。しかし、実際、他の病院では手術は必要ないと診断されたので、今は通院のみで様子をみながら必要によって投薬することで対処している。</p> <p>医者の説明が下手すぎて、自分で調べた方が早く、自分で調べてわからなかったことや、具体的なことを質問したら、嫌な顔をされた。</p> <p>急を要するの可否なのかの判断の説明を受けてもそれが正しい判断なのかを理解しがたかった。</p> <p>説明が不十分で、病気がどういう物なのか、よくわからなく、不安だった。</p> <p>経過観察とのことだったが、注意すべきことや、将来的な危険性等についての説明が聞けなかった。</p> <p>薬を処方されたがどの位の期間飲めばどうなるのか副作用などの説明がされなかった。</p>
--

② 検査・診断時の「医療スタッフの技能」に関するコメント

検査・診断時の「医療スタッフの技能」に関するコメントとしては、「機器の不具合で2度検査を行った」、「一応の最終的な診断が出るまでに数回検査を繰り返し、その間不安だった」などの回答があった。

表3.3-35 検査・診断時の「医療スタッフの技能」に関するコメント

<p>なかなか出血の状態が判らなかつた。 機器の不具合で2度検査を行った。 一応の最終的な診断が出るまでに数回検査を繰り返し、その間不安だった。 アブレーションで必ず治るとのことであったが2回も実施・入院をしたにもかかわらず治らなかつた。 はっきり検査結果が出ていないのに、憶測で病名を言われた。結局、その病名は間違っていた。 目で見える結果が無く、いまいち安心できなかつた。 不整脈と診断しながら、「どうしようもない」と、何も処置しなかつた。 原因が特定できず、最終的に多分ストレスからとの大雑把な説明。 検査時に症状が出なかつたので、推測で診断された。 原因がなかなか究明されなかつた。順番待ちで一日中待たされていたので、実は心不全をおこしていた。 ホイター検査がうまくいかなかつた。 即手術しないと寿命が半年と言われたことに非常に不安を感じた。しかし、実際他の病院では手術は必要ないと診断されたので、今は通院のみで様子をみながら必要によって投薬で対処している。 私でも、わかる様な誤診をされた。医師のレベルの低さを痛感しました。これでは簡単に患者は死ぬのは、当たり前だと思いました。患者もある程度自分の症状などからどんな病気か予想をたてる様に、した方が良くと思います。 医師の診断が検査結果をするごとに変わる。 医師の質が悪くて、ほんとに大丈夫か？と不安になった。また説明もいい加減で気分は最悪。それ以来、医師不信。 医師が薬剤の量を間違つた。 セカンドオピニオンの必要性。 失敗しないかが不安でした。 3件の病院で誤診をされた。 薬の量を間違われた。入院中のことにてナースに伝えたがそのまま。その後病院を変つた。</p>
--

③ 検査・診断時の「医療スタッフの接遇・態度」に関するコメント

検査・診断時の「医療スタッフの接遇・態度」に関するコメントとしては、「精神的なモノで片づけられる」、「検査医師などが、結果に不安げな会話をしているのが不安だった」などの回答があった。

表3.3-36 検査・診断時の「医療スタッフの接遇・態度」に関するコメント

心電図を撮った時に、心電図を見た瞬間看護師さんが突然バタバタを走って医者を呼びに行った。最初に担ぎ込まれた時、肉体的な痛みから来る不安とは別に、やや狼狽気味に慌ただしく動き回る若い医師達を見て、精神的な不安が更に高まった。

検査医師などが、結果に不安げな会話をしているのが不安だった「おかしいな～」とか。

心エコーの最後に検査技師が可笑しいとか、見えない等を口ずさみ、計4人が代わる代わる操作をして所要時間1時間も係り、最後に主治医から異常無しと告知されたり、運動機能検査を受けた時も3スパンの予定が1スパン目の最低速歩行で血圧197-114に上がり検査中止したのに、心電図に多少の不整脈が有るが一過性で問題無しと判断され、主治医の医療技術や意思の疎通が出来ないため、転院した。

精神的なモノで片づけられる。たいしたことないので大丈夫だといわれる。

不安に思って受診しているのに、「たいしたことないから大丈夫」の一言で片付けられそうになった。どう大丈夫なのかを説明してもらうのにこちらから求めなければならなかった。

頭が割れそうに痛くなったので脳外科だと思い受診したら「こういう場合は外科じゃなくて脳神経内科に行くべきですね」と三回言われた。最初は「そうなんですか」と笑って返したがしつこく言われ返事に困り、受診してはいけなかったのかと不愉快になった。専門医特有の上からの物言いで、患者がそんな分野がわかるわけない。

なにか物として扱われているような感じがあった

主治医からの説明が、あまりにも簡単・短時間で、自分がどうすればいいかがよく理解できないまま、いまだに通院を続けています。

入院した病院の看護士の扱いがとても悪かった。

症状が回復しても医師がズルズルと検査通院をさせたがる感じで、と言ってわざわざ遠い病院まで行っても「ああ、大丈夫ですね」だけで、こちらの言うことをあまり聞いてくれない。

カテーテルを受ける前の医師の説明で、最悪の場合を言われるとやはり不安になった。

医師の話し方が元々かなりキツイことで有名な病院に通院しています。専門的な事は医師にしか分からないのに、医師から見て的外れな質問などをしてしまった際、かなり横柄な対応をされました。病院が忙しすぎるせいもあると思うのですが、この病院にかかっている良いのか、本当に不安な気持ちになりました。

医者の対応に不信感を抱いた。

医師の言動が患者を小馬鹿にしていた。

医師の対応が不親切で、言葉も横柄だった。

看護士の傲慢な態度。

医者の威圧的な態度。

医師の言葉づかいに少し配慮が足らなかったため。

検査結果がわかるまでの不安や、ドクターの高圧的な態度など。

カテーテル検査をした時、医師からの説明がちゃんとされず、尚かつ研修医にさせていたのかやけに手際が悪く別の医師に助けを求めていた。

神経内科の専門医ではない人が主治医になってしまったので、やる気を感じられず、投げやり、放置され感があった。その後、その大学病院は改革され、今はずいぶんよくなった。

MRIなど十分な説明もなくその後も予約時間に対して3時間待ちなどもあり、診察時も十分な説明もなく家族を次回連れてくるようにと言う内容を言われ、その割には帰った後次の診察時までの注意事項などもなく薬飲んでいれば大丈夫じゃないの？と思えるような気もしたが、含みある言い方で不安になった。

何も変わりが有りませんか！些細な事に関して聞く耳を持たない！言わない方が良いような感じがする時が有ります。

④ 検査・診断時の「医療機関へのアクセス」に関するコメント

検査・診断時の「医療機関へのアクセス」に関するコメントとしては、「専門の病院が近くにない」などの回答があった。

表3.3-37 検査・診断時の「医療機関へのアクセス」に関するコメント

検査できる病院が限られており、遠方の病院を紹介された。
結果的に自宅から遠い病院に入院になってしまい、その後の通院もとても不便。
専門の病院が近くにない。
小都市の病院であったため、脳外科の医師が常駐していなくて大学病院の派遣医であったため初診時以降1ヶ月ほど直接何の説明もなかったため。

➤ 検査・診断時の「経済的負担」に関するコメント

検査・診断時の「経済的負担」に関するコメントとしては、「検査費用が思ったより高かった」、「検査費用がどの程度かかるのか検討もつかなかったため、金銭的な不安」などの回答があった。

表3.3-38 検査・診断時の「経済負担」に関するコメント

検査費等が高い。
検査費用が思ったより高かった。
薬の値段が高い。
薬にかかる費用が非情に高い。
結構費用がかかった。
検査のたびに、別の病院を指示され、思ったより費用がかかった。最初から大きな病院に行けば良かった。
費用、検査時間など。
経済的不安。
思ったよりも診察費が高く、困った。
血液検査、心電図検査のみの予定で検査を受けたが、エコーやら負荷心電図やら検査項目が増えていき、医療費的には予想したよりずいぶん高くなった。
検査費用がどの程度かかるのか検討もつかなかったため、金銭的な不安。
保険診療であっても、エコーやMRIなどの検査料が高い事。
一時間程度でも一日の入院ということで、費用は一日入院するのと同じだけとられました。

6) その他の不安・不快

① 検査・診断時の「その他の不安・不快」に関するコメント

検査・診断時に感じた「その他の不安・不快」に関するコメントとしては、「上半身を脱いで検査をしたが室温が低くて寒かった」などの回答があった。

表3.3-39 検査・診断時の「その他の不安・不快」に関するコメント

検査ありきで、その時に出た症状（吐き気）にたいする対症は後回しだった。 上半身を脱いで検査をしたが室温が低くて寒かった。 はだかにされて長時間検査その時とても寒かった。 寒くて心細かった。 何となく不安。 精神的苦痛 いつ終わるか分からない不安。 漠然とした不安。 怖かった。 恐怖心など。 何となくの不安感があった。 入院することが不快。 診断でペースメーカーしかないと言われた。 医師に御礼をどれくらいしたらいいのか迷った。

3.3.2.4. 手術・処置時の不安・不快

(1) 手術・処置時に不安・不快を感じた回答者の割合

① 全体

手術・処置時の不安・不快をみると、回答者の 42.6% (213 件) が「なんらかの不安・不快を感じた」と回答している。不安・不快の内容としては、「手術・処置後の通院費などが想定していたよりも高かった」が 13.6%と最も多く、次いで「手術・処置後、頻繁に通院しなければならない」(11.8%)、「手術・処置後、傷あとが気になる」(7.0%)であった。

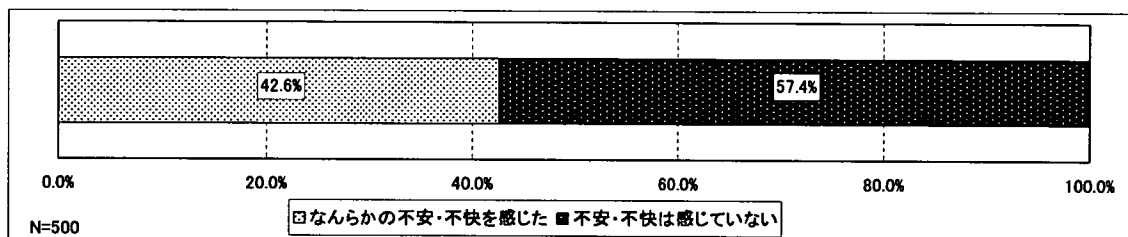


図3.3-21 手術・処置時の不安・不快 (単数回答)

表3.3-40 手術・処置時の不安・不快 (単数回答)

質問項目		
なんらかの不安・不快を感じた	%	42.6
	件	213
不安・不快は感じていない	%	57.4
	件	287
全体	%	100.0
	件	500

② 疾患区分別・処置区分別

疾患区分別・処置区分別にみた手術・処置時の不安・不快の割合は以下のとおりであった。

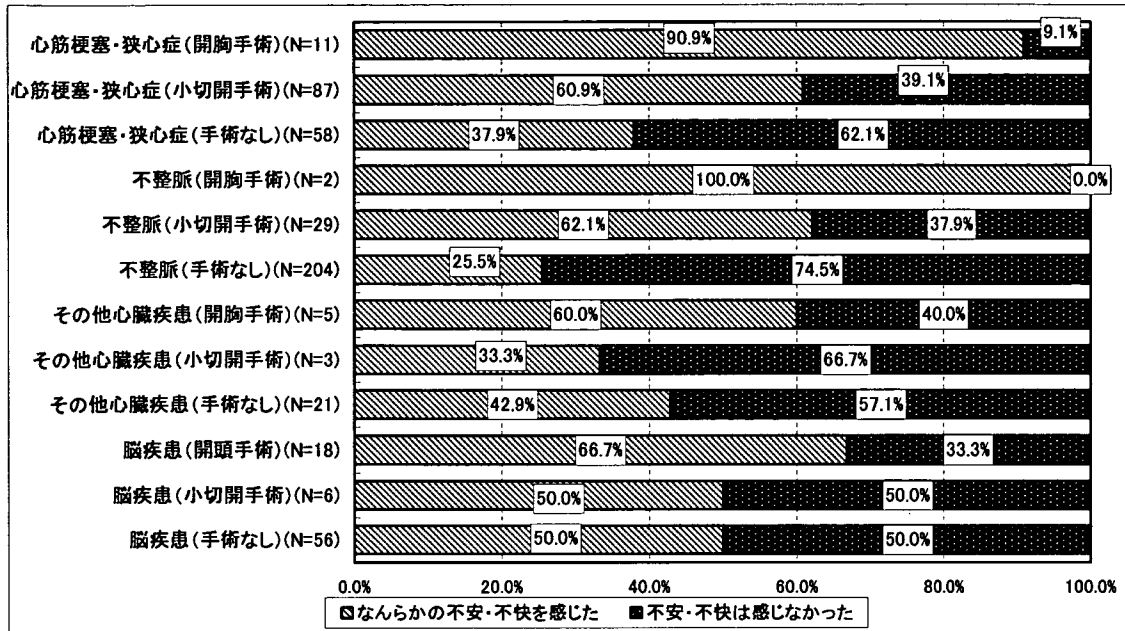


図3.3-22 疾患区分・処置区分別にみた手術・処置を受けたときになんらかの不安・不快を感じた人の割合

表3.3-41 疾患区分・処置区分別にみた手術・処置を受けたときになんらかの不安・不快を感じた人の割合

疾患区分(処置区分)		なんらかの不安・不快を感じた	合計
心筋梗塞・狭心症(開胸手術)	%	90.9	100.0
	件	10	11
心筋梗塞・狭心症(小切開手術)	%	60.9	100.0
	件	53	87
心筋梗塞・狭心症(手術なし)	%	37.9	100.0
	件	22	58
不整脈(開胸手術)	%	100.0	100.0
	件	2	2
不整脈(小切開手術)	%	62.1	100.0
	件	18	29
不整脈(手術なし)	%	25.5	100.0
	件	52	204
その他心臓疾患(開胸手術)	%	60.0	100.0
	件	3	5
その他心臓疾患(小切開手術)	%	33.3	100.0
	件	1	3
その他心臓疾患(手術なし)	%	42.9	100.0
	件	9	21
脳疾患(開頭手術)	%	66.7	100.0
	件	12	18
脳疾患(小切開手術)	%	50.0	100.0
	件	3	6
脳疾患(手術なし)	%	50.0	100.0
	件	28	56
全体	%	42.6	100.0
	件	213	500

(2) 手術・処置時の不安・不快の内容（全体）

不安・不快の内容としては、「手術・処置後の通院費などが想定していたよりも高かった」が13.6%（68件）と最も多く、次いで「手術・処置後、頻繁に通院しなければならない」が11.8%（59件）、「その他の不安・不快」が9.4%（47件）であった。

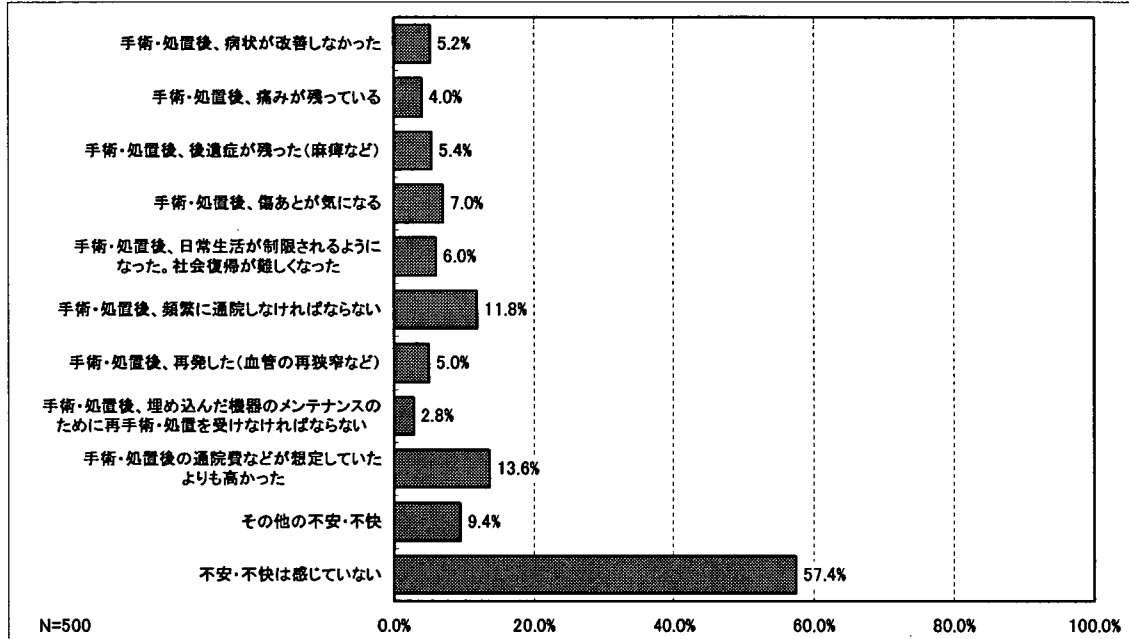


図3.3-23 手術・処置時の不安・不快の内容（複数回答）

表3.3-42 手術・処置時の不安・不快の内容（複数回答）

質問項目		
手術・処置後、病状が改善しなかった	%	5.2
	件	26
手術・処置後、痛みが残っている	%	4.0
	件	20
手術・処置後、後遺症が残った（麻痺など）	%	5.4
	件	27
手術・処置後、傷あとが気になる	%	7.0
	件	35
手術・処置後、日常生活が制限されるようになった。社会復帰が難しくなった	%	6.0
	件	30
手術・処置後、頻繁に通院しなければならない	%	11.8
	件	59
手術・処置後、再発した（血管の再狭窄など）	%	5.0
	件	25
手術・処置後、埋め込んだ機器のメンテナンスのために再手術・処置を受けなければならない（ペースメーカー交換など）	%	2.8
	件	14
手術・処置後の通院費などが想定していたよりも高かった	%	13.6
	件	68
その他の不安・不快	%	9.4
	件	47
不安・不快は感じていない	%	57.4
	件	287
全体	%	100.0
	件	500

(3) 手術・処置に不安・不快を感じた割合（不安・不快の内容別）

① 「手術・処置後、病状が改善しなかった」の割合

「手術・処置後、病状が改善しなかった」の割合を疾患区分別・処置区分別にみると、以下のとおりであった。

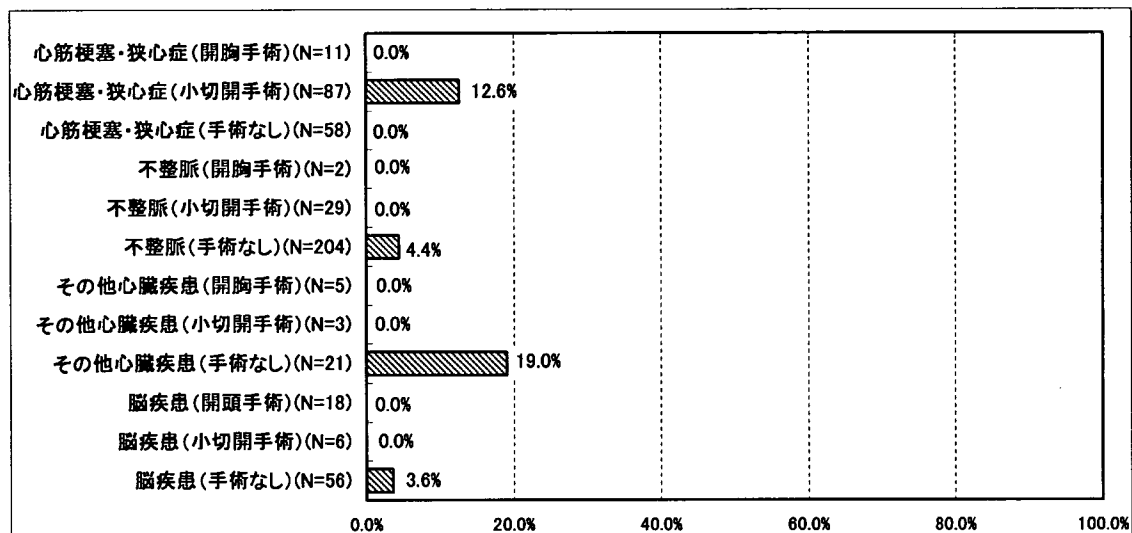


図3.3-24 「手術・処置後、病状が改善しなかった」割合

表3.3-43 「手術・処置後、病状が改善しなかった」割合

疾患区分(処置区分)	不安・不快を感じた		全体
	%	件	
心筋梗塞・狭心症(開胸手術)	0.0	0	100.0
		11	
心筋梗塞・狭心症(小切開手術)	12.6	11	100.0
		87	
心筋梗塞・狭心症(手術なし)	0.0	0	100.0
		58	
不整脈(開胸手術)(N=2)	0.0	0	100.0
		2	
不整脈(小切開手術)(N=29)	0.0	0	100.0
		29	
不整脈(手術なし)(N=204)	4.4	9	100.0
		204	
その他心臓疾患(開胸手術)	0.0	0	100.0
		5	
その他心臓疾患(小切開手術)	0.0	0	100.0
		3	
その他心臓疾患(手術なし)	19.0	4	100.0
		21	
脳疾患(開頭手術)	0.0	0	100.0
		18	
脳疾患(小切開手術)	0.0	0	100.0
		6	
脳疾患(手術なし)	3.6	2	100.0
		56	
全体	5.2	26	100.0
		500	